

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	03.岩手県
市区町村名	03402平泉町
自治体区分	

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
03402平泉町	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	学校支援ボランティアの登録者数は増加しているものの、ニーズが複雑化、高度化し、継続的な支援を求められることが多く、活動する人の固定化も相まって、実施体制がニーズに追いついていない状況が見受けられる。	・地域教育コーディネーターを全小中学校に1名配置し、地域と学校のつなぎ役として、学校のニーズを的確に捉えながら、きめ細やかな学校支援活動を実施する。 ・長期休み期間中にも放課後子ども教室を開講（各実施単位ごとに1～2回）し、子どもたちの安全安心な活動場所としての役割を充実させるとともに、幅広く活動を設定できるメリットを活かして、新たな人材（地域住民等）が学校支援活動に参画する契機とする。 ・学校支援だよりを年3回発行し、学校支援ボランティアの募集や活動紹介を積極的に行い、中高生までその裾野を広げながら新たな担い手の掘り起こしに取り組むとともに、人材の確保・育成に向けた研修会を実施することで、ネットワークの形成とスキルアップに取り組む。	令和6年度は、ボランティア登録者数自体は順調に推移したものの、担い手の硬直化が顕著であった。このことから、令和7年度においては学校支援ボランティアの「量の確保」に加えて「活動体制の持続化」にも視点を置き、長期休み中の体験教室の開講など、現役世代（特にも20～40代）が学校支援活動に参画する（しやすい）きっかけを創出し、持続可能な体制の構築に取り組んでいる。	学校、家庭、地域が相互に役割を認識し実践することで、一部に偏った負担の軽減が図られるとともに、関わりを持つ人の幅が広がり、多様なニーズに応じた学校支援活動を展開するための連携・協働体制を構築することができる。	学校支援ボランティアの登録者数	189 人	200	188	設定した目標値には届かなかったものの、前年度と同水準を維持しつつ、高齢等を理由に退会された方に代わって、20～40代の現役世代が学校支援ボランティアに登録し、持続可能な学校支援活動を展開していくにあたり、大きな成果が生まれている。 その背景として、地域教育コーディネーターが核となり、地域とのネットワークの活用、学校支援だよりによる広報活動の取り組みが学校支援ボランティアの認知度を向上させ、参画へのハードルを下げたものと考えている。 一方で、活動する人材の固定化は以前として大きな課題であることから、特定の方に負担が集中することのないよう、引き続きコミュニティ・スクールを基盤として、課題の共有と改善方法の協議、多様な参画手段の構築に取り組み、学校・家庭・地域による協働体制を強化し、地域に参画の輪を広げていく。	平泉町ホームページ上での公表	

※行が足りない場合は、非表示になっている行を再表示してください。